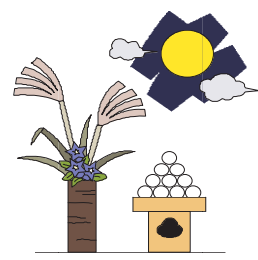


川上ダム通信

2015
9
月号



Vol. 120
Since 2005

独立行政法人水資源機構 川上ダム建設所
〒518-0294 三重県伊賀市阿保 251 番地 TEL: 0595-52-1661 (代)

川上ダム通信は川上ダムホームページでもご覧いただけます。
<http://www.water.go.jp/kansai/kawakami> 又は「川上ダム通信」で検索
ご意見・ご感想はこちらへ <mailto:somu1@lily.ocn.ne.jp>

淀川水系流域委員会のダム視察 川上ダムの進捗状況を確認



川上ダム建設予定地で説明を聞く委員のみなさん

8月18日(火)、厳しい残暑の中、淀川水系流域委員会による現地視察が行われました。この視察は、淀川水系河川整備計画の進捗点検の一環として行われているもので、今年度は木津川上流域が委員会の審議対象となっており、13名の委員に川上ダムを視察していただきました。

現地ではダムサイトが見える西之沢橋へご案内し、事業計画概要のほかダムの基礎となる岩盤が良好であること、仮排水路トンネルは既に完成していること、生活再建工事である付替道路工事を進めていることなど事業の進捗状況を説明し、熱心に質問をいただきました。

当建設所では、平成34年度完成に向け着実な事業実施に努めてまいります。

【調査設計課 高野浩一】

涼しさと天然の不思議に触れおうけつ 甌穴まつりを満喫

高尾住民自治協議会ちかた千方伝承会が行う復活イベントとして今年で8回目の高尾逆柳さかやなぎの甌穴まつりが7月26日（日）に開催されました。このまつりは、平安時代に伊賀地域を支配した藤原千方将軍が敵の首を甌穴に投げ入れたとされ、甌穴内の石を取り出すと千方が怒って雨を降らせ、石を元に戻させたと伝わる雨乞いの行事です。このまつりの準備に、川上ダム職員も土のう作りのお手伝いをさせていただきました。当日は、川上ダム建設所長が藤原千方将軍役に扮し、職員も近畿大学高専の学生さんと共に荒法師の鬼役をとめるなど面白い経験をさせていただきました。



甌穴前の千方将軍と四鬼



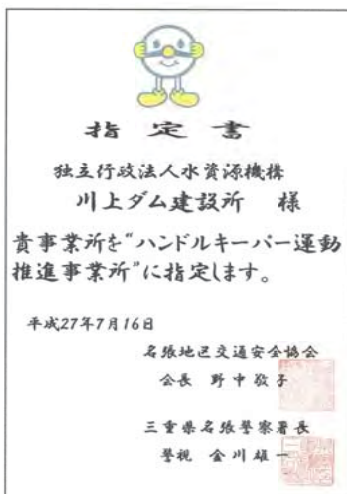
土砂を取り出した甌穴の深さは4m

まつりは、高尾床並集議所での出陣式の後、約200名の参加者が川沿いに遡って甌穴の場所へ移動、住職の安全祈願があり、お参りへと進みました。参加者の方々ははしごをつたって普段は流れの下にある甌穴の中に入ることも出来ました。また、マスのつかみ取りや、お昼には美味しいマスの塩焼きとジンジャー（忍者）めしが振る舞われました。川での天然の涼しさはエアコンとは比べものになりません。甌穴まつりは、夏の日家族の楽しい思い出になること間違いなし、来年も是非お越しください。

【第二用地課 古川直史】

飲酒運転を根絶します！

みなさんは「ハンドルキーパー運動」という言葉を知っていますか？これは、平成18年に福岡県で発生した飲酒運転による死亡事故により、同年から実施されている飲酒運転の根絶のための運動です。例えば、自動車で飲食店に行き飲酒する場合、仲間同士や飲食店の協力を得て飲まない人（ハンドルキーパー）を決め、その人は飲酒せず仲間を自宅まで送るといったものです。



交付された指定書



指定書の授与

7月16日（木）、当建設所は名張地区交通安全協会及び名張警察署から「ハンドルキーパー運動推進事業所」の指定書の交付を受けました。

当建設所では、交通事故の防止と交通安全に対する意識向上のため毎年定期的に安全運転講習会を実施しており、日頃から飲酒運転をしないように注意喚起してきたところですが、今回の指定を受け職員一同、「飲酒運転は絶対にしない、させない」という決意を新たにしました。

【工務課 渡辺高志】

～伊賀の歴史を訪ねて(6)～

「伊賀市史第三巻通史編（近現代）」より、4回シリーズの第2回目をご紹介します。

ひすいいきよ 避水移居

2、浅宇田村と木興村の移住

「被下切金」と拝借金 6か村町の総計657戸もの移住という大事業に、どれほどの金額が必要で、実際に投じられた額がどの程度であったかは不明である。それは、当時のほとんどの土木・建築に関する事業は、他の事業と同様、個人の負担によることが多く、詳細が明らかでないためである。ただ、この事業の大きな特徴は、当時としては破格の「被下切金」(補助金)2000円と同額の

「拝借金」(貸付金)が県から支出されていたことである被下切金額は表13の通りであるが、これらの資金が県から支出されていなければ、この事業は完成していなかったものと考えられる。

表13 各村の「被下切金」と移住面積

村名	「被下切金」の金額	1戸当たりの金額	一戸当たりの移住先面積
小田村	711円4銭1厘	6円26銭5厘	約115坪
木興村	335円16銭	6円26銭5厘	約189坪
浅宇田村	294円44銭	3円86銭9厘	約24坪
馬苦勞町	353円95銭4厘	8円23銭1厘	約55坪
幸坂町	206円73銭	6円46銭	約39坪
清水町	206円	9円86銭7厘	約26坪

浅宇田村の事業内容 浅宇田村のうち、移住事

業を開始したのは浅宇田村下小場であった(「三重県史稿 政治部 工業」国立公文書館所蔵)。下小場は浅宇田村の枝村で、「郷土教育資料」には、近世には「西小場」と記され、集落は本村の西、現在の大野木橋周辺にあった。

移住事業出願時に添付したとみられる屋敷割の図を見ると、事業の概要がわかる。前述したように、受け取った一戸あたりの被下切金と拝借金の合計額が最も少なく、また移住地の一戸平均の面積が最も狭い理由がこの図で明白になる。

この地区は、近世より貧困者が非常に多く、慢性的な住宅難に悩まされていたとみられる。嘉永四(1851)年の「相規一札之事」はそれを示す資料の一つである。

浅宇田村移住計画図を細部にわたって見ると、持家の者が79戸で移住戸数159戸の約51パーセントにすぎない。そして、残り74戸が「長家」つまり借家に移住していたことがわかる。

移住先面積が最も狭く、住居優先で道路や排水路といったほかの用途に活用する土地が確保できず、同地区の移住事業は、後々住環境を悪化させる要素を含んでいた。

木興村の事業 近世の木興村は、往古川を挟んで小田村の南に位置し、枝小場藪ノ下を除き木津川西岸の平坦地に集落を形成していた。近世に大水害に見舞われたという記録がなく、水害が多発するようになったのはやはり安政の大地震以降とみられる。地理的には、木興村からまっすぐ北上すると上野市街に到達することもあり、藩から軍事的・経済的にも重要視され、明治四(1871)年、伊賀暴動の際には県はここに兵隊を配備させた。

木興村の避水移居事業の資料は現地に一切残っていないため、主として国立公文書館所蔵の「三重県史稿 政治部



工業」に頼らなければならない。同書によると、被下切金および拝借金の額は小田村・馬苦勞町に次いで三番目に多いが、小田村の半分以下である(表13)。それにもかかわらず、移住先一戸あたりの平均面積は189坪と6か村町のなかで最も広い。基盤の目状に区画された家並み(「阿拝郡上野市街明治地誌」添付図 伊賀市上野図書館所蔵)と、現存する下水路の整備状況から、緻密な計画に基づいて行われたものであったことがわかる。

《つづく》

【総務課 梅村喜重】

青山夏まつり・桐ヶ丘夏祭りにダムブース出展 クイズにチャレンジしてくれてありがとう！

7月19日(日)の「青山夏まつり」、8月1日(土)の「桐ヶ丘夏祭り」に川上ダム建設所はそれぞれブースを出展し、川上ダムに関するパネル展示や子供向けクイズを実施しました。クイズには、多くの子供たちに参加いただき、延べ200人の方に回答していただきました。子供たちは、職員の説明を受けながら難しい課題にも熱心に取り組んでくれました。妹が正解できるよう、お姉ちゃんがクイズを説明する微笑ましい姿も見ることができました。その甲斐もあって、チャ



青山太鼓で夏の暑さを吹き飛ばせ！



めざせ全問正解！

レンジした子供たち全員が全問正解でした。(チャレンジしてくれてありがとう！)

今年も地域の皆様と交流を深めることができ、職員もたいへん楽しい時間を過ごすことができました。残念ながら今年ブースにお越しいただけなかった方も来年は是非お越し下さい。当建設所は、皆様とお会いできることを楽しみにお待ちしております。

【総務課 山下朋穂】

本紙に対するご意見と掲載記事を募集します♪

当建設所では、読者の皆様により一層親しみながら川上ダム通信をお読み頂けるよう、本紙に対するご意見や掲載記事を募集しています。詳細については、下記までお問い合わせくださいますようお願いいたします。

【問い合わせ先】 総務課 梅村 TEL: 0595-52-1661 Mail: somu1@lily.ocn.ne.jp

※掲載記事については、広告など営利目的のものはお受け致しかねますのでご了承下さい。

イベントのお知らせ

ウエノジョウ タキギノウ
上野城 薪能

開催日：9月19日(土) 午後6時開演
開催場所：伊賀市上野丸之内
上野公園・上野城本丸広場特設舞台
問い合わせ先：伊賀市観光戦略課
TEL: 0595-22-9670

風と土のふれあい芸術祭 in 伊賀

開催日：9月20日(日)～27日(日)
開催場所：伊賀市腰山354
矢持地区市民センター
問い合わせ先：風と土のふれあい芸術祭
in 伊賀実行委員会
TEL: 0595-53-1077

編集後記

平成23年に皆既月食を見たときは、見慣れた平たい月ではなく、宇宙空間に浮かぶオレンジ色のピンポン球のようで感動しました。今年の9月27日は旧暦の8月15日、1年のうちでもっとも美しいとされる「中秋の名月」です。その翌日は、楕円軌道を描く月が地球にもっとも接近した状態で、直径も大きく、明るいスーパームーンになるようです。皆さんも夜空を見上げて、お月見を楽しんでみてはいかがでしょうか。



【広報誌発行事務局】

編集長 加納 (所長)
デスク 梅村 (総務課長) 小谷口 (工務課長兼工事課長)
記者 山下 (総務課) 本山 (第一用地課)
古川 (第二用地課) 藤本 (調査設計課)
廣瀬 (環境課) 日隈 (工務課)